

台湾の落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2024年12月2日

これは米国農務省海外農業局台北事務所(台湾)が作成した「落葉果実年次報告書」を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

2025/26年度の台湾のリンゴ輸入量は、2024/25年度よりやや少ない15万5千トンと予測される。当事務所は、生育期の悪天候を受け、2025/26年度の生産量を1千トンと予測する。2024/25年度のリンゴ消費量は、輸入品16万9,573トン、台湾産1,101トンで、10年ぶりの高水準に達した。供給量では米国産が最多で、供給額ではニュージーランド産が最大であった。日本産は2.75米ドル/kgの最高価格(CIF)を記録した。

生産

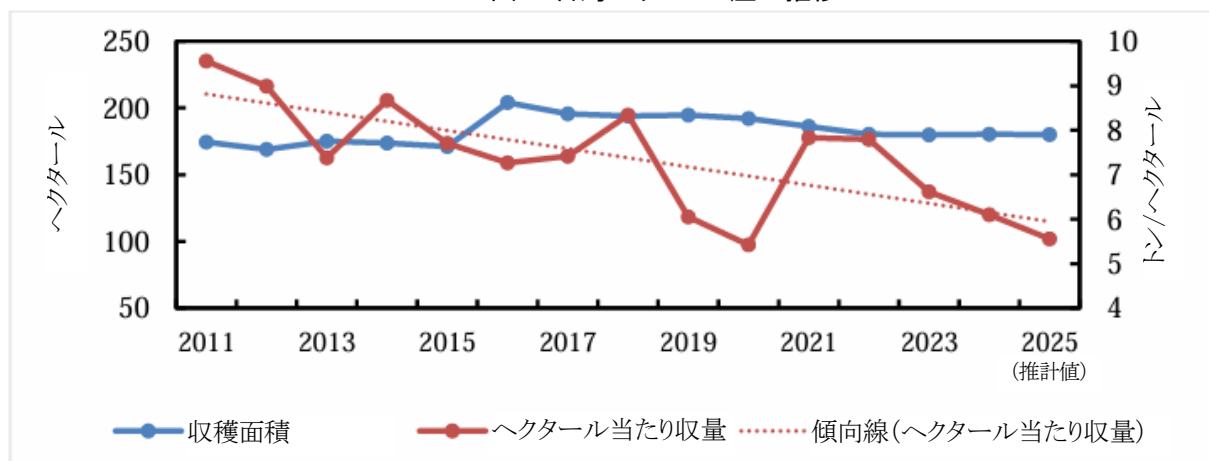
2025/26年度の台湾のリンゴ生産量はさらに減少し、約1千トンと予測される。この減少は、開花期及び着果期の低温、並びに成熟期の豪雨等の好ましくない天候条件によるものである。多くの生産者が今年は記録的に低い収量を報告しており、供給不足のため予約注文をキャンセルしている者もいる。

台湾農業部(MOA)によると、2024/25年度のリンゴの総生産量は当初の予測を下回る1,101トンに減少した(図1)。この減少の主な原因は、2024年11月に台湾を襲った台風が、中生及び晩生の品種の収穫期に落果を引き起こしたことである。

台湾の温帯果実はリンゴも含め、栽培適地の移動により次第に状況が厳しくなっている。台湾のリンゴは主に台中地方中央山脈の標高2千～2,200メートルの山岳地帯で栽培されている。開花期は3月から4月で、収穫期は通常10月に始まり12月まで続く。地形、気候、土壌及び水資源の保全、運搬、高地で栽培される他の作物との競合等の要因により、リンゴの栽培面積の拡大は限られている。

しかし、台湾では現地で生産される蜜リンゴ¹が依然として安定した市場及び需要を有しているため、現在の栽培面積は約180ヘクタールで推移している。当事務所は、長期的には、より多くの生産者が他の作物の栽培に移行するものと予想する。

図1 台湾のリンゴ生産の推移



データの出典: 台湾農業部(MOA)、推計値は当事務所

¹「蜜リンゴ」(蜜蘋果、ハニーアップル)は特定の品種ではない。これは、高地における昼夜の大きな気温差により、果実の成熟過程でデンプンがソルビトールに変わり、半透明の「蜜」を形成する現象を指す。この現象は、恵(恵)、ふじ等の晩生のリンゴ品種で一般的に観察される。

消費

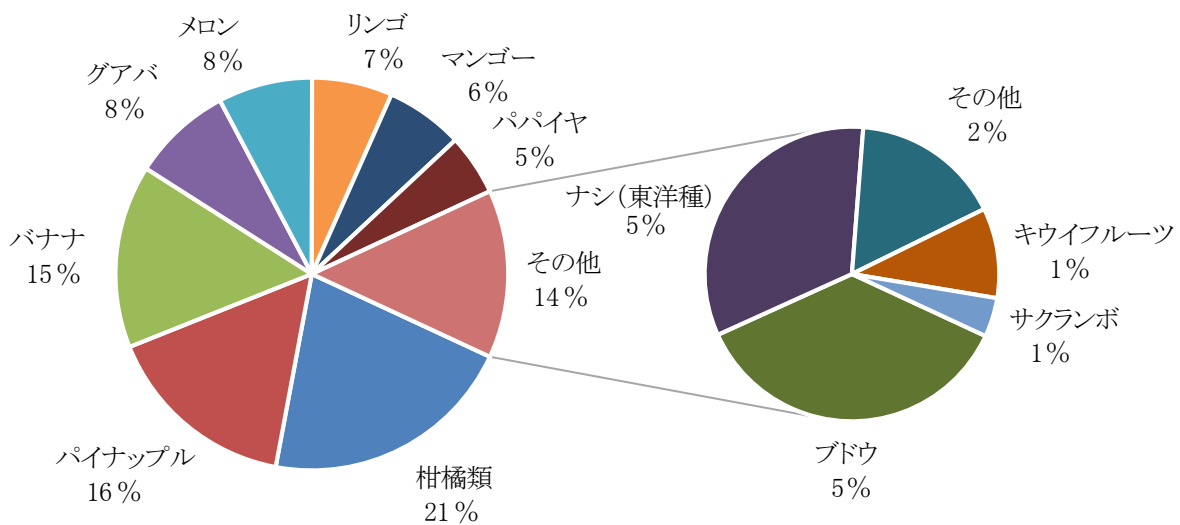
台湾農業部(MOA)のデータによると、1人当たりの果実消費量は約110kgで、そのうち200万トンが台湾産で、30万トンが輸入である。主に消費される果実の種類は柑橘類、パイナップル、バナナ、マンゴー、グアバ、リンゴである(図2)。

台湾では、2024年の度重なる台風と豪雨により、バナナ及びその他の果実の生産量が減少し、リンゴがその不足を埋める機会が増えた。その結果、2024/25年度のリンゴ消費量は17万644トンに増加した。2025/26年度には台湾産果実の生産が通常の水準に戻ると見込まれることから、当事務所は、リンゴの消費量が15万5千トンに減少するものと予測する。

リンゴは最も多く輸入される果実であり、輸入果実の約半分を占めることから、供給不足を埋めるのに最適である。また、経済の発展に伴い、リンゴは贅沢品から日常的な必需品へと変化してきた。消費者はリンゴに対して好意的な印象を持っており、また、価格の変動は他の季節的な果実に比べて一般的にそれほど顕著ではない(図3)。その結果、リンゴの需要は安定しており、果実の屋台やスーパーマーケットの定番商品となっている(図4)。さらに、高品質で大玉のリンゴは、台湾の一般市民の間で贈答品として引き続き人気がある。

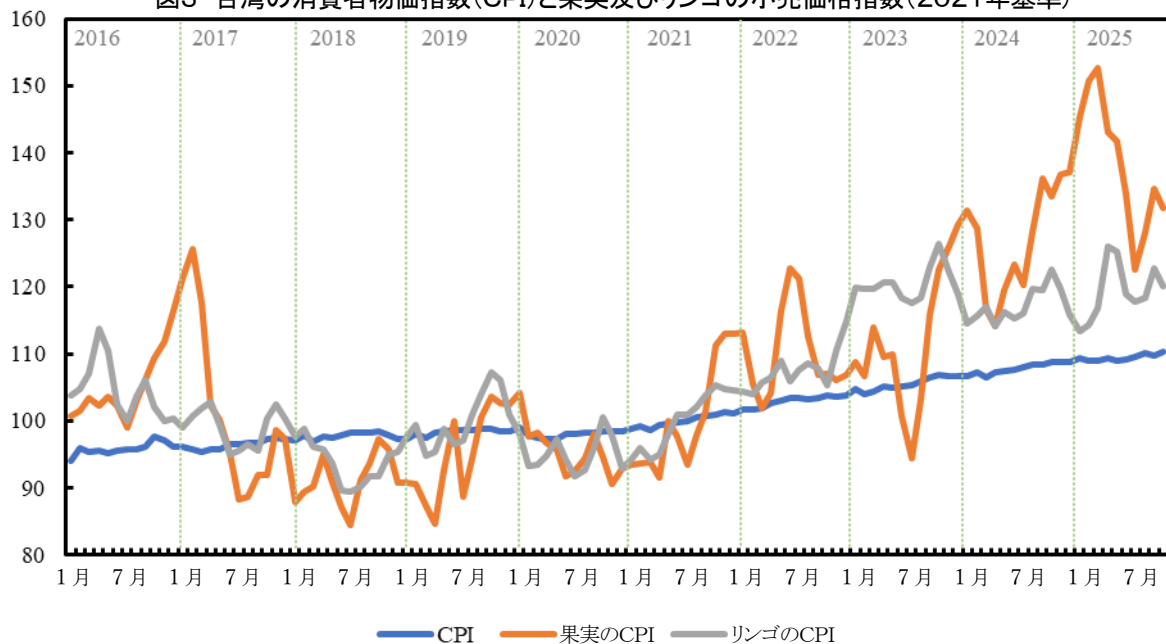
かつて台湾の消費者の間で最も人気のあったリンゴは、甘さと歯ごたえのある食感で知られるふじ品種であった。マーケティング活動の増加に伴い、より多くの人々が様々なリンゴ品種に注目し始め、近年では、エンヴィ、ダズル等の品種も注目を集め人気を得ている。

図2 台湾の果実消費量



データの出典: 台湾農業部

図3 台湾の消費者物価指数(CPI)と果実及びリンゴの小売価格指数(2021年基準)



データの出典：行政院予算会計統計総局

図4 スーパーマーケットにおけるリンゴの販売状況



写真提供：筆者

貿易

台湾では現地産のリンゴが総消費量の1%未満であるため、消費量と輸入量はほぼ同等である。2024/25年度には、台湾のリンゴ輸入量が10年ぶりの高水準である約17万トンに達し、ニュージーランド産及びチリ産が大部分を占めた。

ニュージーランドは1年間に4万トン以上のリンゴを台湾に供給した。また、2025年4月以降、ニュージーランドは初めて6カ月連続で月に3,857トン以上のリンゴを台湾に供給した(図5)。これは主にニュージーランドの豊富な供給量と輸出シーズンの長期化によるものである。

南アフリカ産リンゴは、ハマキガ科の害虫に関する植物検疫上の懸念から、2025年には台湾への輸入がなかった。過去には最大で年間1万トンの南アフリカ産リンゴが台湾に輸出されていたが、近年では5千トンを下回っている。

貿易量では、米国は2024/25年度の台湾への最大のリンゴ供給国であった(図6)。ただし、貿易額ではニュージーランドが最上位の供給国であった。主要な供給国5カ国の中で、日本産のリンゴは2.75米ドル/kg²と最も単価が高く、ニュージーランド(2.21米ドル/kg)、米国(1.48米ドル/kg)、チリ(1.37米ドル/kg)、南アフリカ(1.02米ドル/kg)の順で続いた(図7)。

² Trade Data Monitor, LLC のデータによる

図5 台湾の月別リンゴ輸入量 供給国別

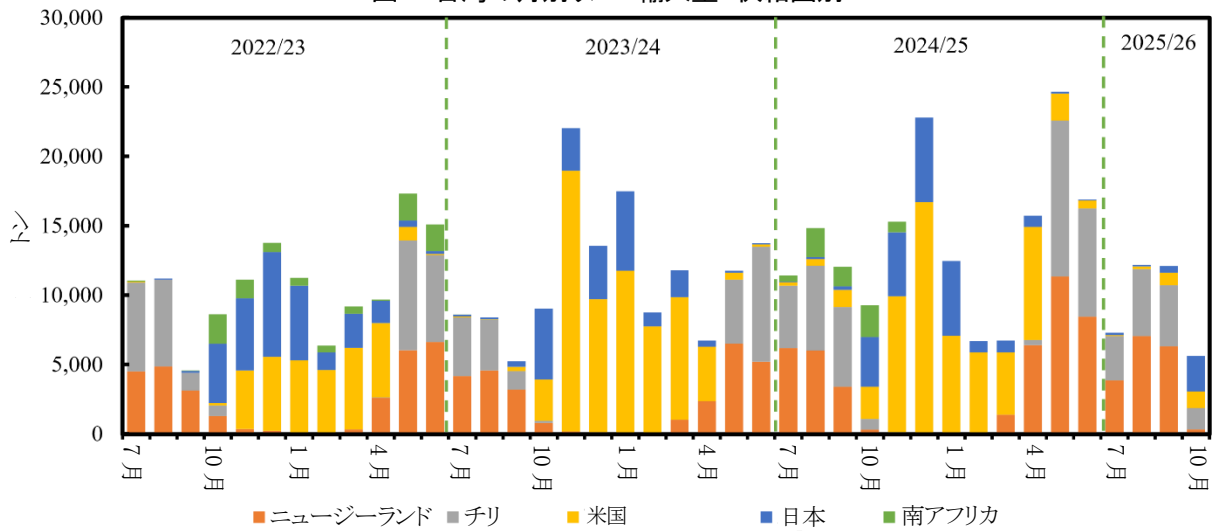


図6 台湾のリンゴ輸入量

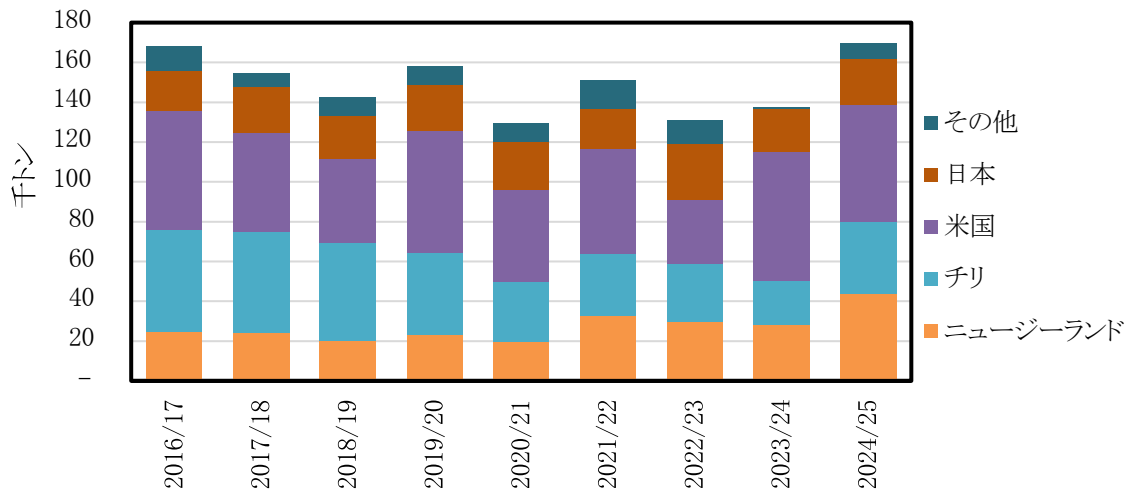


図7 台湾のリンゴ輸入単価(主要供給国別)

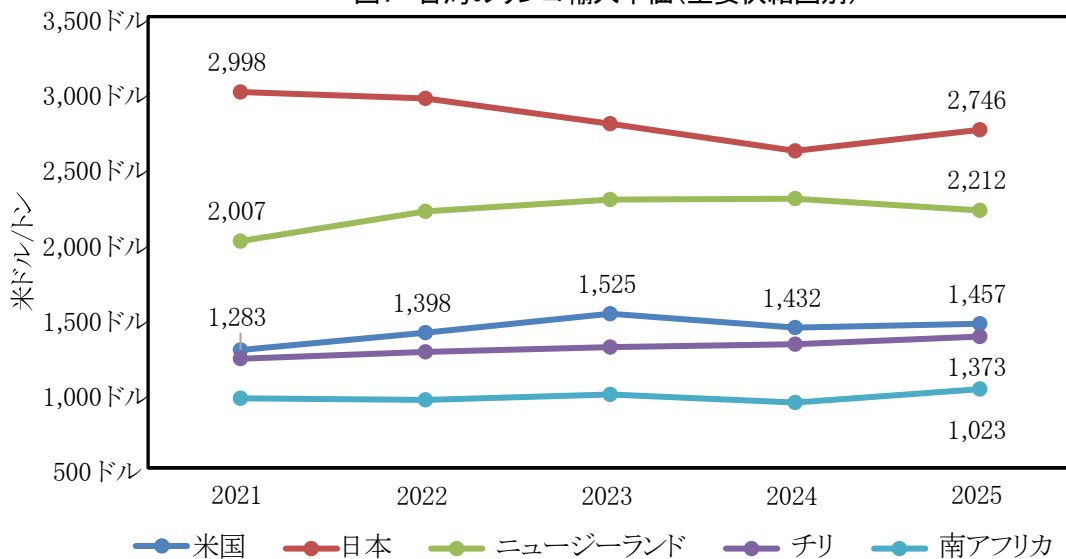


表1 台湾のリンゴ輸入

輸入額(千米ドル)	2022/23	2023/24	2024/25	2024/25 シェア	2023→2024 変動率
世界	247,977	244,770	303,184		24%
米国	48,781	92,664	85,798	28%	-8%
ニュージーランド	68,184	64,267	96,385	32%	50%
日本	79,716	57,493	62,522	21%	9%
チリ	37,648	29,396	50,154	17%	71%
南アフリカ	9,681	20	7,182	2%	3,590%

輸入量(トン)	2022/23	2023/24	2024/25	2024/25 シェア	2023→2024 変動率
世界	131,253	137,726	169,543		23%
米国	31,996	64,693	58,871	35%	-9%
ニュージーランド	29,872	28,077	43,582	26%	55%
日本	28,601	22,050	22,765	13%	3%
チリ	28,892	22,256	36,539	22%	64%
南アフリカ	9,794	22	7,021	4%	-100%

データの出典: Trade Data Monitor, LLC

政策

輸入関税(HS 080810/生鮮リンゴ)

2013年から無税のアクセスが認められているニュージーランドを除き、台湾への主要リンゴ輸出国のほとんどは20%の関税が課される。

台湾の輸出国別リンゴ関税率

国	関税率
米国、チリ、日本、南アフリカ	20%
ニュージーランド	0%

輸入植物検疫規則

生鮮食品は、台湾衛生福利部食品薬物管理署(TFDA)及び農業部動植物防疫検疫署(APHIA)によって規制されている。米国産生鮮リンゴはAPHIAの「[米国からの生鮮リンゴの輸入に関する検疫要件](#)」(2024年7月31日版)によって規制され、APHIS(米国農務省動植物検疫局)発行の植物検疫証明書(PPQ様式577)を添付する必要がある。

植物検疫証明書は、任命されたAPHISの職員及びAPHISが認可した州及び郡の当局だけが発行できる。第5.6条に従い、検疫要件の病害虫リストが変更された場合、更新されたリストは台湾当局の[ウェブサイト](#)で確認できる。

残留農薬及び汚染物質の基準

TFDAは、国境検査を担当する所轄官庁である。栽培方法の違いにより、米国と台湾では農薬の最大残留基準(MRL)が異なっているが、国境検査での違反はほとんど発生していない。台湾は、「食品中の残留農薬基準」によるポジティブリスト制を採用している。最新版は[統合サイト](#)を参照されたい。重金属の基準は、TFDAの「[食品中の汚染物質及び毒素に関する衛生基準](#)」に記載されている。

台湾のリンゴ(生鮮)の生産需給統計

リンゴ(生鮮) 販売年度の始まり 台湾	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
	2023 年 7 月		2024 年 7 月		2025 年 7 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	176	180	179	181	0	180
収穫面積(ヘクタール)	176	180	179	180	0	180
結果樹本数(1000 本)	62	64	64	64	0	63
未結果樹本数(1000 本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(1000 本)	62	64	64	64	0	63
商業的生産量(トン)	1,189	1,189	1,250	1,101	0	1,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	1,189	1,189	1,250	1,101	0	1,000
輸入量(トン)	137,700	137,727	145,000	169,543	0	155,000
総供給量(トン)	138,889	138,916	146,250	170,644	0	156,000
消費量(トン)	138,889	138,916	146,250	170,644	0	156,000
輸出量(トン)	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向け量(トン)	138,889	138,916	146,250	170,644	0	156,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

更新データの出典: 台湾農業部及び Trade Data Monitor, LLC